日本気象学会1998年度春季大会シンポジウムのお知らせ

日　時：平成10年5月28日（木）13：00〜15：00
場　所：竹橋会館（瑞宝）
テーマ：予測可能性……カオスへの挑戦
主　旨

大気を支配する力学系に潜むカオスの影響により，時間積分と共に初期値に含まれる誤差が拡大して，一つの初期条件から時間積分に基づく決定論的な予測が不可能になることが知られている．このため，数値予報ではこの予測限界を考慮して，費用対効果の高いシステムを構築することが重要である．例えば，あらかじめ初期値の誤差を意識して多数の初期条件を作成し，それぞれから出発した多数の予測結果を総合して，確率的な予報を発表するアンサンブル予報が業務化されつつある．また，初期条件の誤差と予測結果の誤差との関係を記述する手段も開発されてきており，予測誤差を効果的に小さくするためには，どこで何を観測すればよいか，という議論も可能になってきている．

このように天気予報の可能性を追求する研究の進展により，観測システムの設計からテレビでの天気予報の発表形態に至るまで，カオスに対する戦略が確立されようとしている．今回のシンポジウムでは，予測可能性の研究とそれを利用する予報現場からの報告に基づきカオス戦略の展望を議論していきたい．

プログラム

司会：隈　健一（気象庁数値予報課）

基調講演

予測可能性概論：余田成男（京都大学）
データ同化と初期値依存性：露木　義（気象庁数値予報課）
予測可能性とアンサンブル予報：高野清治（気象庁気候情報課）

コメンテーター

今後の展望について：木本昌秀（東京大学気候システム研究センター）

総合討論

問い合わせ先

〒100-8122　東京都千代田区大手町1-3-4
気象庁予報部数値予報課　隈　健一
TEL：03-3212-8341　内線（3315）
FAX：03-3211-8407
E-mail kenkuma@npd. kishou. go. jp

訂　正

44巻2号137-141のシンポジウム欄「都市気候学に関する国際会議（ICUC'96）に参加して」で140ページ右カラム12行目でEssen大学の所有する移動気象観測車の価格を**約73億円**と記載しましたが，正しくは**約7,300万円**でしたので訂正いたします（一ノ瀬俊明）．